



## ●秋の研究会大会で発表しましょう！

すでに周知されておりますが、10月28日および29日に、日本色彩学会の「秋の研究会大会」が開催されます。

色彩教材研究会では、昨年度と同様に研究発表会を10月28日（土）に開催します。

例年通り「予稿」執筆によるスタイルに加えて、今年度より「要旨」のみの提出で発表申し込みが可能となりました。発表したいけれど予稿の執筆が難しいと感じられる方でも気軽に発表が可能となります。

日頃の研究成果を発表されたい方は、ぜひ応募いただきたいと思っております。発表したいのだけど、ちょっと心配な方は遠慮なく主査にご一報いただければ、相談に乗らせていただきます。秋の研究会大会を起点として、さらに研究をブラッシュアップして、春の全国大会で発表できるきっかけになればと願っております。勿論、その先にも繋がるでしょう。

### ◆キースケジュール

- ・「予稿あり」の応募締切：8/2（水）
- ・「要旨のみ」の応募締切：8/28（月）
- ・閲読コメント返信（予稿）：8月下旬まで
- ・閲読コメント返信（要旨）：9月中旬予定
- ・アブストラクト・原稿締切：9月下旬予定  
（主査 吉澤陽介）

## ●旅で見たトキのポスト

新潟からジェットフォイルで約1時間、佐渡の両津港に到着する。佐渡と言えば「トキ」。トキの学名は「ニッポニア・ニッポン」と呼ばれペリカン目トキ科なのだ。



「トキ色」とは。小学館の『色の手帖』によると、「鴝の風切羽や尾羽の色による名。明るい紫みの赤」と書かれている。

この「鴝色」が見たくて来たのだが・・・トキはどこにでも飛んでいるわけではなかった。

野生のトキは佐渡で今年2月の数は537羽と言われている。「朱鷺色」がみられるのは繁殖期が終わり11月下旬から12月の佐渡に雪の降る直前、「桃花鳥色」がとても鮮やかになり美しいのだそうだ。

トキは遺伝もあるが、ザリガニなどの甲殻類を食べることで色素を体内にとりこみ「桃花色」の羽になると言われている。トキに会えずガッカリしていたら『トキの森公園』の入り口近くに可愛いポストを見つけた。トキ放鳥10年記念で2018年にできたそうだ。

正面から見て「トキだ！」とビックリした。横から見ると「時色の羽」も可愛い。(Sizuka)

## ●大辞泉ひろいよみ 27ーう

**潤み朱**：黒漆に朱を混ぜた漆塗り。また、その色。

**潤み朱塗**：彩漆の一種で、黒漆に朱またはベンガラを混ぜた褐色の漆で塗るもの。潤み塗り。

**上絵**：布地の白く染め抜いたところに別の色で絵や文様を描くこと。また、その絵。素焼きに釉をかけて焼いた上に、さらに色釉を用いて描きあげた絵。

**上絵付け**：上絵を描いた陶磁器を再び窯に入れて低温で焼き上げること。

**上絵屋**：染物の上絵描きを職業とする家、また、職人、上絵師。

**上絵具**：陶磁器の表面に絵や文様を描くのに用いる顔料。無色の鉛釉を溶媒とし、ベンガラ・酸化コバルト・酸化マンガンなど酸化物を加えたもの。焼成すると融けて茶褐色・青・紫などの色になる。上絵釉。

**釉・上薬**：うわぐすり。陶磁器の、素地の表面に施すガラス質の溶液。焼成すると薄い層をなし、吸水を防ぎ、光沢を帯びて装飾を兼ねる。主成分は珪酸化合物。金属含有物によって、さまざまな色を呈する。釉薬。

**上白む**：表面の色が冷めて白っぽくなる。

\*大辞泉：小学館発行国語辞典 (永田泰弘)